

献呈の辞

この度、二〇一三（平成二五）年一月五日に、奥村大作先生がご壮健のうちにめでたく古稀を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。本論文集は、奥村先生の古稀を寿ぐために、日本大学法学部内外の同僚・友人や、これまでに薫陶を受けてまいりました研究者たちが集まり、それぞれの最新の研究成果をまとめたものです。

奥村先生は、一九四三（昭和一八）年一月五日生まれで、東京大学文学部西洋史学科を卒業後、日本大学大学院法学研究科修士課程を修了し、英国ロンドン大学大学院経済学研究科政治学（政治思想史専攻）修了の後、一九六六（昭和四二）年四月に、防衛庁防衛研究所に入所、翌年に防衛大学校に移られました。

日本大学法学部には、一九七七（昭和五二）年一〇月に専任講師として着任し、政治学等を担当されました。その後は今日に至るまで、助教授、教授として、三十余年の長きにわたり、本学の教育と研究に尽力されてまいりました。この間、奥村先生から薫陶を受けた教え子は、学部講義を通じたり、ゼミナールで身近に教えを受けた卒業生はもろろのこと、大学院修了者も数多く存在しております。

研究者としての奥村先生は、初期になされたレイモン・アロンの政治思想に関する研究をはじめ、プラトン、マキアヴェリ、ホッブズ、ルソーなどの古典はもとより、ハンナ・アーレントの政治哲学など現代における政治哲学にまで及んでおります。また近年では、毎年のように、総合観光学会における全国学術研究大会での研究報告を重ねら

れており、常に第一線の研究者であるという姿勢を示しているように思われます。

また、奥村先生は、政治哲学はもちろんのこと、ヨーロッパ政治にもかかわるような多数の翻訳書も手がけられており、政治学を学ぶ者には必読ともいえる著作をいくつも刊行されているのは、改めて申し添えるまでもありません。奥村先生が本学で過ごされた三十余年においては、教育と研究だけでなく、学内のさまざまな仕事を担われました。近年では、先生が法学部政経研究所長として大きな役割を果たされたことは記憶に新しいところです。

本論文集の刊行にあたり、先生のさらなるご健康を心より祈念するとともに、後進の者たちに対する先生からの末永いご指導ご鞭撻を衷心よりお願いして、献呈の辞とさせていただきます。

平成二五年三月吉日

日本大学法学部長 杉 本 稔